

実態把握と目標設定	• 学部	小						
	• 年	低						
	• 対象児童生徒の障害	<p>■知的障害、□自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、</p> <p>□情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、</p> <p>■その他（発達障がい【自閉スペクトラム症】）</p>						
	• 対象児童生徒の課題	変化が苦手で、自分が決めた流れと異なる状況になると気持ちが乱れることが多い。また、気持ちが乱れた際には、噛みつきや引っかきといった他害行動が見られる。						
	• 自立活動の目標	<ul style="list-style-type: none"> • 朝の準備の流れを理解し、教員の支援を受けながら準備を行うことができる。 • エプロン・三角巾・マスクを着用した状態に慣れる。 						
	• 上記目標に対応する区分	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">健康の保持</td> <td style="width: 33%;">心理的な安定</td> <td style="width: 33%;">人間関係の形成</td> </tr> <tr> <td>環境の把握</td> <td>身体の動き</td> <td>コミュニケーション</td> </tr> </table>	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成					
環境の把握	身体の動き	コミュニケーション						
• 支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> • 準備の流れを示すカードを用意し、カードと実物を一緒に提示して、次に何をするのか確認できるようにする。 • 準備の途中で絵本やおもちゃを求めた際には、「準備が終わってから渡す」ことを明確に伝える。 • 三角巾の着用が苦手であるため、まずは復路のみ着用するところから始め、牛乳を運ぶことをモチベーションにして着用できるよう言葉かけを行う。 							
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	<p>朝の準備の流れが漠然と入り始めており、教員が流れのカードと実物を提示すると、受け入れてスムーズに行動できる場面が増えてきた。ただし、気分のむらがあるため、安定してスムーズに行動できるようになることが今後の課題である。</p> <p>また、エプロンなどの三点（エプロン・三角巾・マスク）については、当初は着用を拒否していたため、エプロンと三角巾を10秒間着ける練習から始めた。徐々に慣れてきた段階で、クラス全員で牛乳を取りに行く活動が始まった。児童は「クラスのみならず一緒に行動したい」という気持ちが強いため、「給食を運ぶには三点を着ける必要がある」という条件を伝えると、往復とも三点を着用し、牛乳をお盆にのせて運ぶことができた。</p>						

	<ul style="list-style-type: none"> ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等 	<p>気持ちのならない場合には、カードと実物を提示し、身体の向きを連絡帳かごや給食セット置き場の方向へ促すことで、比較的スムーズに持っていくことができた。また、心理面の影響により、準備の順序を変えたほうが効果的な場合もあったため、2学期からは一覧形式ではなく、めくり式のカードを使用したい。</p> <p>エプロンなど三点の着用については達成と考えているが、教室に戻るとすぐに脱いでしまうことが多い。学年が上がった際のことも見据え、もう少し長い時間、着用したまま活動できるような支援方法を検討していきたい。</p>
グループ討議	<p>全校研究②学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参考になった支援方法等 	<p>教室に戻った後も三点を着用したまま取り組めるよう、着用状態で行える役割を与える。</p>
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の様子、変化 	<p>朝の準備については、一覧表を確認しながら丸をつける形式にすることで、行動の見通しをもって取り組めるようになってきている。教員が「連絡帳」など具体的に声をかけると、自ら連絡帳を取り出し、決められた場所に持って行く場面が増えており、ペンで印をつける動作も安定してきている。</p> <p>エプロン等の三点着用について大きな進展は見られなかったものの、衣服着用そのものへの抵抗は減りつつある。西浦フェスティバルの衣装では、初めこそ軽い抵抗があったものの、練習が進むにつれて積極的に着用しようとする姿が見られた。これは、日頃のエプロン着用練習など、「身につける」経験を積み重ねてきたことによる成長であると考えられる。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等 	<p>感染防止のためのマスク着用練習の時間を、登下校時の着替えの時間やプレイルーム・中庭に出る前など、定期的に設けた。また、ハンカチをポケットに入れるよう指導したことで、触覚過敏の緩和につながり、多様な場面で身につけることへの抵抗が減ってきた。</p>
まとめ	<p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の来年度の目標、課題等 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の準備の流れを理解し、教員の支援を受けながら準備を行うことができる。 ・エプロンの形をマジックテープに変え、ひとりでエプロンを着用できる。 <p>課題：教室で三点を着用したまま、配膳に参加する。</p>

実態把握と目標設定	• 学部	小
	• 学年	高
	• 対象児童生徒の障害	□知的障害、■自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 □その他（ ）
	• 対象児童生徒の課題	課題： 準備を早く行うこと 朝の準備や給食の準備に時間がかかるため、活動を始める際にワントempo遅れてしまう。自分で行動できるように、周りをよく見て動けるようになることが課題である。
	• 自立活動の目標	場面に応じた言葉で自分の要求を伝えることができ、行動を早く始められるようになる。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション
	• 支援の手立て	絵カードや文字カードなどの視覚的な教材を併用しながら、場面に合った言葉を伝えられるようにし、模倣を促すことから始める。また、次に何をしたらよいのかを明確に提示し、適切な言葉かけを行うようにする。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	朝の準備では、教員の言葉かけや着替える動作のジェスチャーを行うことで、着替えるまでの時間が早くなった。その日の様子や気分によって着替えないこともあるため、朝の準備を終えてから休憩や遊びの活動ができることを伝え、取り組みを促していく。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	言葉かけやジェスチャーによって行動が早くなり、朝の準備がスムーズに進んだことで、朝のあいさつの時間に合うようになった。また、言葉かけだけでなく、着替える場所まで一緒に行き、着替えが終わるまで見守り、できた時にはその都度褒めるようにした。
グループ討議	全校研究②学年・クラスで検討 • 参考になった支援方法等	準備が遅くなる要因を再度確認し、早く準備できるよう見通しを立てて支援することが重要である。また、準備後に楽しい活動がある経験を積むことで、意欲的に取り組めるようにしていく。さらに、教員がポジティブな言葉かけを行うことで、成功体験を多く積めるようにする。相手に助けを求めることが難しいため、身振りや行動で助けを求められるように支援していく。

2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の様子、変化 	<p>朝の準備は、教員の言葉かけによって進んで取り組むことができるようになってきた。着替えについては、言葉かけがなくても自ら進んで着替えようとする姿が見られた。また、水分補給やトイレも、教員の言葉かけによってスムーズに行えるようになってきている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等 	<p>朝の準備を早く済ませることで、外で楽しい活動ができるという経験を積んだことで、自ら進んで準備に取り組む姿が見られるようになった。また、教員のポジティブな言葉かけにより、児童が主体的に準備を進める場面が増えてきている。</p> <p>一方で、相手に助けを求めることはまだ苦手なため、教員や友だちに身振りや言葉で助けを求められるような指導を行っていく。</p>
まとめ	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の来年度の目標、課題等 	<p>来年度以降も準備への声かけを継続する。声かけの回数を減らすのを目標とする。</p> <p>朝遅れて来ることがあるため、ご家庭の協力も得て朝の時間に間に合うように登校できる生活習慣を身につける。</p>